

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 060

(2023/24年度 USDA米国農務省 7月12日発表)

[ハイライト]

① 今年度の世界穀物生産見通しは順調に推移し史上最高見通しも、波乱要因は異常気象/物流混乱/ウクライナ…

先月も述べた通り、今年度のUSDA生産見通しは現時点において下記の通り穀物28.3億ト+大豆4.1億ト=合計32.4億トと極めて楽観的かつ順調な見方ではあるが、今後穀物生産は異常気象等の自然現象や人為的な要因に大きく左右される世界であり様々な波乱要因から目を離すことは出来ない。特に、昨年南米ARGの穀物生産に大きな打撃を与えた「ラニーニャ」は今年2月に終了したが、5月以降「エルニーニョ」が発生し米国海洋気象局等から今後更に強まる可能性が指摘されている。

② エルニーニョ(太平洋赤道域から東の海面水温上昇)・ラニーニャ(逆に低下)により大きく変動する世界の穀物生産

上記現象による世界穀物生産への影響は大きい。統計では2000年以降、概ね2年に1度(エルニーニョ4回/ラニーニャ5回)発生し、昨年はARGで60年に1度という大旱魃で小麦は1,240万ト(前年比45%減)/コーン3,600万ト(同31%減)/大豆2,100万ト(同53%減)の大打撃となったが、今年のエルニーニョ予想では豪州小麦が早魃の為昨年3,900万ト⇒2,900万トの大幅減産予想、東南アジアのタイでは降雨不足、米国中西部/カナダの乾燥、中国河南省の豪雨被害等懸念を示す兆候が報告されている。

③ ロシアの「黒海回廊」合意離脱により不透明感増すUKRの穀物輸出見通しと穀物需給不安

今週(7/17)期限の切れたロシア/UKR等4者による「黒海回廊」合意について、ロシアが離脱表明したことによりUKRの今年度3千万ト(小麦10.5/コーン19.5百万ト)と予測される穀物輸出に不透明感が増すと同時に世界の穀物需給に不安を与え足元で小麦価格が乱高下している。昨年8月合意以降現在までのUKR穀物輸出数量は約3,300万ト(小麦900/コーン1,700/その他)であるが、ロシアは自国農産品や肥料等生産資材輸出に対する経済制裁解除を条件としており、交渉は難行しそうだ。

1、世界穀物需給の概要

① 生産量:	2,831百万ト(前年比3.1%)	増↑、前月比0.1%	減↓)
② 消費量:	2,820百万ト(前年比1.8%)	増↑、前月比0.1%	増↑)
③ 貿易量:	506百万ト(前年比3.7%)	増↑、前月比0.0%	⇒)

2、小麦

① 生産量：	797百万ト（前年比0.8%	増  、前月比0.4%	減  ）
② 消費量：	799百万ト（前年比0.8%	増  、前月比0.4%	増  ）
③ 輸出量：	212百万ト（前年比2.6%	減  、前月比0.5%	減  ）
⑤ 在庫量：	267百万ト（前年比1.0%	減  、前月比1.5%	減  ） / （在庫率 33%）うち中国137百万ト、占有率51%
④ 価 格：	\$6.40/Bu	（前年\$8.31/Bu / 前月\$6.19/Bu）	と前月比\$0.21 上昇。
⑤ 概 況：	世界生産量はARG/カナダ/EU等の減産から前月比4百万トほど減少し8億トを切ったが、前年比では7百万ト増加し <u>史上最高</u> 見通し。消費量は中国で飼料用需要増の為前年前月比とも増加。輸出量は若干減少したが2億ト台を維持。在庫は減少。		

3、とうもろこし

① 生産量：	1,224百万ト（ 前年比6.4%	増 ↑	、前月比0.1%	増 ↑	）
② 消費量：	1,207百万ト（ 前年比3.6%	増 ↑	、前月比0.0%	➡	）
③ 輸出量：	198百万ト（ 前年比12.3%	増 ↑	、前月比0.3%	増 ↑	）
④ 在庫量：	314百万ト（ 前年比6.0%	増 ↑	、前月比0.0%	➡	） /（在庫率 26%）うち中国204百万ト、占有率65%
⑤ 価 格：	\$5.61/Bu	（前年\$7.54/Bu	/	前月\$6.09/Bu）	と前月比\$0.48 下落。
⑥ 概 況：	世界生産量は米国/UKRで若干増加し前月比微増、前年比では大幅に約66百万ト増加し 史上最高見通し 。消費量も前年比43百万ト増加し 12億ト台を維持 。輸出量は前年比に24百万ト増加し 2 億トに迫っているが 、在庫は生産量の伸びに消費量が追いつかず大きく増加し3 億ト超。その結果、価格は\$ 0.5近く下落し5ドル台半ばと小麦/大豆とは対照的に低迷している。				

4、大豆

① 生産量：	405百万ト（前年比9.6%	増 ↑	、前月比1.3%	減 ↓	）
② 消費量：	385百万ト（前年比6.0%	増 ↑	、前月比0.4%	減 ↓	）
③ 輸出量：	169百万ト（前年比0.2%	増 ↑	、前月比1.8%	減 ↓	）
④ 在庫量：	121百万ト（前年比17.6%	増 ↑	、前月比1.9%	減 ↓	） / （在庫率 31%）うちBRA41/ARG24百万ト
⑤ 価 格：	\$14.86/Bu （前年\$16.26/Bu / 前月\$13.53/Bu） と前月比\$1.33 上昇。				
⑥ 概 況：	世界生産量は米国の収穫面積引き下げ等から前月比若干減少したが、南米BRA/ARGとも好調であり前年比では10%近く増加し4億ト超の史上最高見通しは変わらず。消費量も前年比2千万ト増加したが生産量伸び大きく、在庫は前年比2千万ト増。				

世界の穀物・大豆等の需給

2023年7月12日
米国農務省発表： 単位１００万トン

主要穀物世界の需給							
			生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量
全穀物	2020/21		2,800	3,594	513	2,802	792
	2021/22		2,746	3,538	488	2,771	766
	2022/23	6月	2,834	3,599	506	2,818	781
	2023/24	7月	2,831	3,597	506	2,820	777
小麦	2020/21		781	1,065	203	793	273
	2021/22		790	1,063	217	793	269
	2022/23	6月	800	1,067	213	796	271
	2023/24	7月	797	1,066	212	799	267
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2020/21		1,505	1,828	254	1,491	337
	2021/22		1,443	1,780	216	1,456	323
	2022/23	6月	1,513	1,838	238	1,498	340
	2023/24	7月	1,513	1,837	238	1,497	340
米	2020/21		514	701	57	519	182
	2021/22		512	695	56	521	174
	2022/23	6月	520	694	56	524	170
	2023/24	7月	521	694	56	524	170
大豆	2020/21		360	460	154	361	99
	2021/22		370	469	169	366	103
	2022/23	6月	411	512	172	386	126
	2023/24	7月	405	508	169	385	124

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	6月	297.55	1,222.77	187.00	1,206.35	197.76	313.98
	7月	296.30	1,224.47	188.40	1,206.65	198.26	314.12
アメリカ	6月	36.87	387.75	0.64	314.59	53.34	57.32
	7月	35.60	389.15	0.64	314.59	53.34	57.45
アルゼンチン	6月	1.51	54.00	0.01	13.50	40.50	1.51
	7月	1.51	54.00	0.01	13.50	40.50	1.51
ブラジル	6月	7.97	129.00	1.20	76.50	55.00	6.67
	7月	7.97	129.00	1.20	76.50	55.00	6.67
EU	6月	7.08	64.30	22.50	81.50	5.00	7.38
	7月	7.08	63.40	24.00	82.10	5.00	7.38
日本	6月	1.40	0.01	15.50	15.50	0.00	1.42
	7月	1.40	0.01	15.50	15.50	0.00	1.42
中国	6月	205.32	280.00	23.00	304.00	0.02	204.30
	7月	205.32	280.00	23.00	304.00	0.02	204.30
ロシア	6月	0.91	16.30	0.05	11.90	4.20	1.16
	7月	0.91	16.30	0.05	11.90	4.20	1.16
ウクライナ	6月	1.39	24.50	0.00	5.50	19.00	1.39
	7月	1.39	25.00	0.00	5.50	19.50	1.39

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	6月	101.32	410.70	169.82	386.09	172.41	123.34
	7月	102.90	405.31	166.57	384.51	169.29	120.98
アメリカ	6月	6.27	122.74	0.54	66.29	53.75	9.52
	7月	6.95	117.03	0.54	66.01	50.35	8.16
アルゼンチン	6月	17.55	48.00	5.70	42.70	4.60	23.95
	7月	17.55	48.00	5.70	42.95	4.60	23.70
ブラジル	6月	33.55	163.00	0.45	59.70	96.50	40.80
	7月	33.05	163.00	0.45	59.70	96.50	40.30
中国	6月	35.80	20.50	100.00	118.00	0.10	38.20
	7月	36.77	20.50	99.00	118.00	0.10	38.17
EU	6月	1.61	3.22	14.00	16.74	0.30	1.78
	7月	1.61	3.22	14.00	16.74	0.30	1.78

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	6月	266.66	800.19	209.54	796.14	212.62	270.71
	7月	269.31	796.67	207.96	799.45	211.62	266.53
アメリカ	6月	16.28	45.32	3.67	30.26	19.73	15.28
	7月	15.79	47.33	3.54	30.81	19.73	16.12
アルゼンチン	6月	2.93	19.50	0.01	6.60	13.50	2.34
	7月	2.93	17.50	0.01	6.60	12.00	1.84
オーストラリア	6月	3.15	29.00	0.20	8.00	21.00	3.35
	7月	2.84	29.00	0.20	7.70	21.50	2.84
カナダ	6月	2.54	37.00	0.60	9.60	27.50	3.04
	7月	2.54	35.00	0.60	9.10	26.50	2.54
EU	6月	16.66	140.50	7.00	109.50	38.50	16.16
	7月	17.66	138.00	7.00	109.50	38.50	14.66
中国	6月	139.58	140.00	12.00	151.00	0.90	139.68
	7月	139.03	140.00	12.00	153.00	0.90	137.13
インド	6月	9.50	113.50	0.10	108.10	1.00	14.00
	7月	9.50	113.50	0.10	108.10	1.00	14.00
ロシア	6月	17.64	85.00	0.30	42.00	46.50	14.44
	7月	16.64	85.00	0.30	42.00	47.50	12.44
ウクライナ	6月	1.73	17.50	0.06	7.10	10.50	1.69
	7月	1.63	17.50	0.06	7.10	10.50	1.59

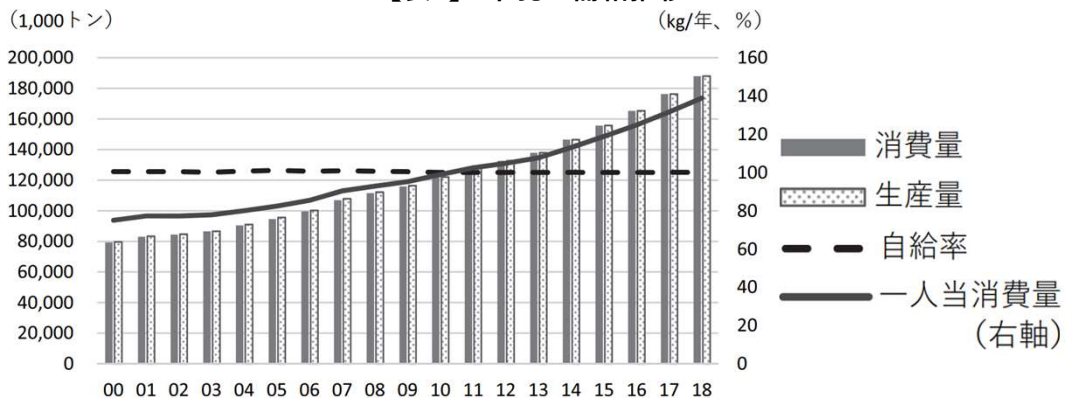
脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

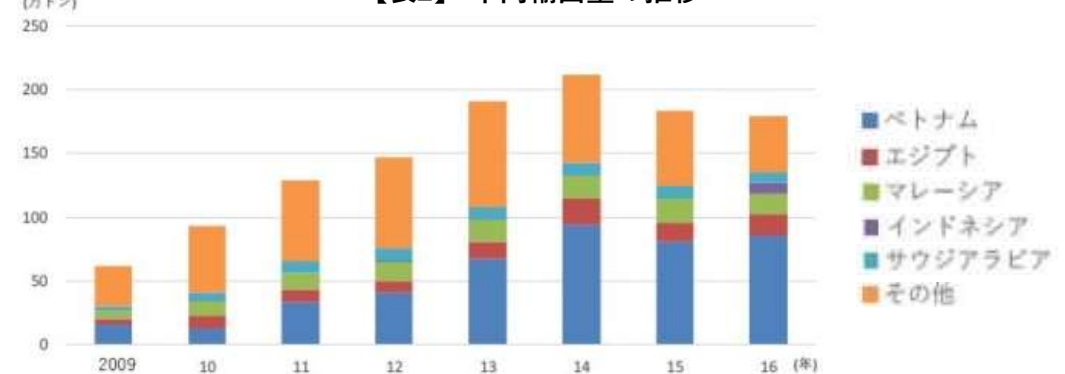
世界主要国の農業と穀物需給の行方…インド(4)

- ❶ 先月はインドの穀物最低支持価格(MSP)と公的分配制度(PDS)、それに米/小麦の生産/輸出入経過等について述べたが、今回は同国のヒンズー教徒が8割を占める中での特異な畜産生産と配合飼料生産拡大の可能性等について触れたい。その最大の特徴の一つは、国民の蛋白源としての**牛乳生産量と一人当たり消費量が世界的に突出**して大きいこと。二つ目は意外な事に**牛肉輸出量が米国/ブラジル等と並び世界トップクラス**である点、第三に宗教的制約のない**鶏肉生産量の大幅な伸び**と結果としての**配合飼料生産量の拡大**である。
- ❷ 2015/16年度の畜産物全体産出額は4.8兆ルピー(約8.2兆円)と04/05年比約2.6倍と大幅に拡大、その中で**牛乳構成比は約7割**を占め圧倒的である。[表1]に示す様に牛乳生産量は00年の8千万ト→**18年1.88億ト**(水牛含む)と約2.4倍。その量はEU1.46億ト、米国0.96億トをも凌ぎ世界最大である。また一人当たり**年間消費量は139kg**(一人一日3.8リットル)と大半の動物性蛋白/脂肪摂取は牛乳に依っているのが特徴である。因みに日本は年間一人当たり31kg、AST 110kg/英国105kg/デンマーク88kg/米国76kg…。
- ❸ 一方、牛肉生産は00年⇒18年にかけて**2.8倍の424万ト**迄拡大、うち国内消費量は240万ト/一人当たり消費量約2kg弱と欧米諸国と比べ比較にならないレベルである。その中で牛肉輸出量は[表2]の通り09年60万ト以降拡大し14年200万トを超え、15年以降中東地域の景気後退等により減少したが、**約180-140万ト程度を維持**し世界有数の牛肉輸出大国となっている。形態は冷凍骨抜/約7割は水牛肉で**低価格/低脂肪/ハラール対応**を武器に近隣ベトナム(多くは中国向)/エジプト/マレーシア等に輸出されている。21年世界牛肉生産量7,230万ト(米国1,273/BRA975/ EU687/中国698/**インド420**)、輸出量1,145万ト(BRA232/米国156/**インド140**)の中でインドの存在は大きい。
- ❹ これらの背景となっているインドの牛/水牛の総頭数は21年305百万頭(牛195水牛110)！世界全体17.3億頭比約18%とその**“牛密度”は高い**。雌牛はヒンズー教では多くの州で屠畜は禁止されているが水牛/雄牛/或いは廃用牛は国内向けには全国3,600カ所、輸出向けは認可を受けた77施設で屠畜されている。国内消費は人口15%を占める**ムスリム(2億人)**が中心であるがその消費の裾野は広がっている。インド人は牛は最後ガンジス川に葬られると言うが、そんなことは無い。**貴重な蛋白源は国内外で有効活用**されている。
- ❺ 果たして、牛肉を食さないインド人は何を食べているのか？ 最近目覚ましい伸びを見せているのがヒンズー/イスラム教ともに宗教的縛りのない**チキン**である。[表3]で見る通り生産量は00年120万トから**18年480万トと4倍増**、一人当たり消費量は3.5kgと3倍となった。インドでは伝統的な鶏肉料理(タンドリーチキン等)の他に外資系ファストF等も消費を拡大している。その他に、ヤギ肉550万ト/羊肉280万ト/豚肉360万トと牛肉国内消費も含め**約2,000万ト**となるが、一人当たり食肉消費量は**僅か16kg程度**であり、欧米の100kg前後中国61kg等に比べ遥かに少ない。しかし、配合飼料生産量は着実に拡大し12/13年度20⇒**21年44百万トと倍増**。この数字は中国261/米国231 /BRA 80 百万トに次いで**世界第4位**まで躍進し[表4]に示した様に配合原料の**コーン生産も拡大**(21年**34百万ト**)している。(続く)

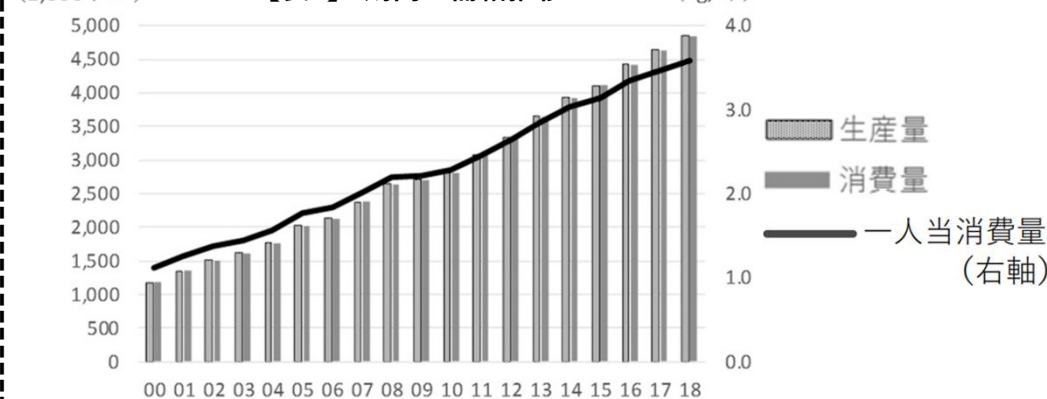
【表1】 牛乳の需給推移



【表2】 牛肉輸出量の推移



【表3】 鶏肉の需給推移



【表4】 トウモロコシの需給推移

